

～ セピア色の風景 ～

「栗とすり鉢」

青田 茂雄

仙台建設業協会専務理事

新聞にこんな短歌を見つけ
た。

遠き日の 母の仕草思ひつつ
小栗の渋を 摺鉢にとる

この短歌に私は、祖母を思
い出した。

山から取ってきた小栗（栗
自体が小さいから実も小さ
い、人差し指の頭程度の大き
さである）を祖母が皮むきを



していた。栗が好きな私は、
すぐ口に入れたいため最後の
ころ、その作業を「手伝った」。
これだけの栗の渋をどう
やって取るのだろうかと思っ
ていると祖母は、すり鉢を持っ
てこいという。皮むきされた
栗をすり鉢にいれると祖母
は、栗をすり鉢のギザギザに
押し込むように揉んだのであ
る。

「つつつえ（小さい）栗は
こうして揉むと渋
取れんだどー」と。

しばらくして黄
色い栗は、見事に
渋がなくなり色白
の栗になったので
ある。私は、すり
鉢にはこうした使
い方もあるんだと
感心した。

それ以来半世
紀、二度とそんな
場面には出会わな



かったが、祖母のその技を披
露した静かな喜びの顔と、し
わくちやな右手を思い出す。

●あおた・しげお 1956年
生まれ。福島県相馬市出身。20
16年5月から仙台建設業協会の
専務理事を務める